

程度に於て先代萩御殿を一〇〇として私は四分方ですか五分方語れてゐますか」と尋ねた、ヒイキ客は六分方位の表現力しかないと卒直に云つて除けた、伊達太夫は一有難うございますこれで私は將來斯藝に精進すれば必ず成功するといふ確信を得ました私はキツトあなたの御期待に副ふべく完璧を期して修行致しませうと誓つたとある以て他山の石とすべきであらう日本の藝道の區分に能樂の祖世阿彌は初心、上手、名人天下の名望を得たものの四種に分ち歌道に於ては兼好法師が初心、上手、堪能の三段階に分つてゐる、僭越かも知れぬが淨瑠璃を語られる人々を左の九品に別つ事も又徒事でなからうかと記す事とした即ち

一、初心者にして未だ聲熟せざる人

二、聲熟せざるも型に於て稍整ひたる人

三、型に於て稍成功し聲又成熟に近き人

四、型に於て整ひあるも聲の成熟度に僅少の瑕瑾ある人

新人の登場



新良貴社長に望む

甲 南 學 人

新人と言ふは當らぬかも知れぬ、それ程貴下の浪花素義界

五、聲成然し型又良なるも表現力(情感)欠如せる人

六、型稍不整又は相違せる點あるも表現力及情趣の表現成功に近き人

七、型整ひ聲又完全に近きまで練成されあり又表現力も相當あるも立體感及品位に乏しき人

八、聲の練成完全型又良好表現力佳良なるも情熱情趣の活殺の妙稍欠如せる人

九、以上の諸欠陥全然無く立體感及活殺の妙ありて而も品位備はりたる人

以上を推論するに一より三までを初心の部類に。四より六までは上手と稱すべく。七、八は是を堪能に相當し。九は名人と稱すべきであらう?

次で二名以上の聴者(審査員)の採點に非常の間隔がある場合に於ての演者の幸福?に就ては次章に述べる事とする。

に於ける地位名望は錚々たるものがある。

閱歷的にも亦御本職の藥業界に於ける足跡から觀ても寧ろ舊人の部に屬するのが至當と思はれるが、難事業中の其最たる雑誌の經營、殊に樋口苦笑君四十餘年の苦闘歴史を有する『淨瑠璃雜誌』の一切を舉げて無難作に引き受けた勇氣と仁俠は到底舊人の能くし得ざる處以て新人登場と頭書した所以

である。今は亡き尊父徳兵衛翁は直言直行、時には黒いものを白いで押し通して來た人で實行力の超努敏なる、前途を卜するの炯眼なる、實行稀にみるの傑物であつたそうだ。その天にも地にもかけ替ない一粒種として二代目を繼承した貴下は、餘りにもかけ離れた資性、圓轉滑達的一面、清濁併せ呑むと言ふ巨きな抱擁の一面、時には意識して坊ちやんになり了せる一面、そして今一つ特筆大書すべきは例の親譲りとも言ふべき實行力の横溢せる一面こそ吾々の待望久しき處のものである。

今日正統に素義人として完全無缺の資格ある者、此浪花の地だけでも倭に數萬を數へると稱され全國津々浦々を尋ねれば恐ろしき數字に達し、今更普及の遍きに眼を見張らない譯には行かない。が此の何%が果して古典藝術として淨瑠璃義太夫節の眞箇の意義を解し、検討、究明よくその將來を考慮するものあるかを究めたならば恐らく啞然たるものがあらう。淨瑠璃雜誌が茲に陣容を整へ、その新社長として貴下の登場は、日頃の抱負を如實に示すを期待して居る。仍ち舊態打破、淨界人の一致團結に依つて國粹藝術の將來を約束し、日本精神の顯現に邁進せしめむとする絶好の機會を得た事であつて貴下に待望するや、實に大なるものがある。過日ある席で貴下の心からなる、述懐を聞いた人の話によれば今度の雜誌繼承に際して各方面から寄せられた激勵乃至壯行文の大

半は關東方面と地方からで、肝腎の地元からは寂寥僅かに畑違ひの藥界の知己の二三から鄭重な激勵文が贈られた事には何ものかを考へさゝれた、とあつた。筆者もそれを聽いて同様何ものかを考へさゝれた譯である。

淨界人ばかりではない。大阪人はもつと斯ふした雜誌に對する認識を是正する必要が多分にあると思ふ。

まして嚴選印刷時代に於ける雜誌乃至讀物の價値は充分肯定して然りであらう。その昔の無氣味な存在としての潛入感を今以つて失ふことなく白眼視するが如きは甚しい時代錯誤と言はざるを得ない。

以上斯ふした大阪人と讀物の難解點が、貴下の述懐の一素因を成してゐることを指摘してせめてもの失望の一端を補ふ事としやう。

幸に貴下には購ふことの出来ぬ偉大なる若さがある。實力がある。新人社長の名に背かず大いに爲すあるを期し、敢て他に些の遠慮氣兼する事もなく堂々の筆陣を張つて淨界の革正に折角の健闘を祈つてやまない。(一八・二・一一)

甲。南。學。人。氏。へ。

御差支なくば至急御本名及御住所を御通知下さい。

(シラキ生)